

講義名	社会統計学 /社会統計学			授業形態	
担当教員	佐藤 彰宣	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 4時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

調査データの整理や分析など、社会調査において必要な基礎的な統計的知識について学習する。統計的方法は様々な分野で利用されているが、正しく適用するためには、その基本的な考え方の理解が重要である。身近なデータによる統計分析を通して、統計的知識をどのように利用するのか、調査から得られたデータをどのように集計し分析すればよいかを学び、統計学を適切に利用して自分の研究に役立てる力を身につける。

到達目標

・統計的方法は様々な分野で利用されているが、正しく適用するために、その基本的な考え方を理解できる。
 ・身近なデータによる統計分析を通して、統計的知識をどのように利用するのか、調査から得られたデータをどのように集計し分析すればよいかを学び、統計学を適切に利用して自分の研究に役立てる力を身につけることができる。

提出課題

各回の授業内容に応じて、演習課題やミニレポートを提出してもらう。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

演習課題については、課題の提出後、次の授業内で解答の解説を行う。
 ミニレポートについては、次の授業時に興味深いコメントを取り上げ講評を行う。

評価の基準

平常点課題（演習課題・ミニレポートの提出）60%、期末レポート40%

履修にあたっての注意・助言他

提出物は、提出期限を遵守すること。
 また、授業課題として演習課題（計算問題）を解くことがあるため、電卓を用意しておくこと。
 コンピュータ実習を伴うので、対面授業を原則とする。

教科書

・社会調査のための統計学－生きた実例で理解する－	神林博史、三輪哲	技術評論社		9784774146805
--------------------------	----------	-------	--	---------------

参考図書

その他

適宜レジュメを配布する。上記以外の参考文献は自らのなかで別途案内する。

授業計画

- 1 社会統計学とは
- 2 度数分布表
- 3 度数分布図
- 4 基礎統計量（代表値）
- 5 基礎統計量（ちらばり）
- 6 クロス表
- 7 相関係数
- 8 変数の統制
- 9 確率と確率分布
- 10 抽出法の理論
- 11 検定：カイ二乗検定
- 12 検定：t検定
- 13 検定：相関係数の検定
- 14 クロス表の検定
- 15 まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="checkbox"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> エ：グループワーク
<input type="checkbox"/> オ：プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> キ：その他（A.L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習として事前に教科書に目を通しておくこと。：2時間程度
 復習として講義で学んだことを自分なりにノートにまとめておくこと。講義で学んだ手法を練習問題で実践してみる。：2時間程度

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

統計的知識および分析手法の習得を目指す本科目は、卒業認定・学位授与の方針として示されている「流通科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力」のなかでも、特に「情報収集力」「情報分析力」「課題発見力」などを養うことにつながる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

コンピュータ実習を伴うので、対面授業を原則とする。レポート課題の提出などは、ポータルサイト「Ryuka Portal」を通して行う。

実務経験の有無及び活用

備考
